

## 元気に育って帰ってきてね

こども園こども園児と中里小3年生がヤマメの稚魚放流

ヤマメがいる川をつくり、観光資源にしよう  
と小泊環境協会が5月27日(木)にヤマメの放流会を開催し、こども園こども園児たちが参加しました。

園児たちは、バケツに入ったヤマメの稚魚の元気のよさにびっくりしながらも、「大きくなってね」と笑顔で呼びかけ、ゆっくりと川へ放流しました。

また、中里小学校3年生22人が6月10日(木)に



滝ノ沢ふるさと砂防愛ランドで、ヤマメの稚魚約5,000匹を放流しました。

初めに、県職員から砂防ダムの役割などを学習したあと、バケツに入った稚魚を一斉に放流しました。児童たちは声をそろえて「元気に大きくなってね!」とヤマメの稚魚へ声掛けをしていました。

この事業は、「子供達と共に夢を創る会」(代表・白川勝則)が主催で、青森県県土整備部河川砂防課、西北地域県民局地域整備部、そして中泊町の協力で行われています。

## もっと漁業を身近に

“さかなと海”ふれあい体験学習を実施

6月11日(金)から7月2日(金)まで各小学校、中学校の生徒が“さかなと海”ふれあい体験を行いました。

各小学校の児童たちは、海の生き物の学習や釣り体験、小泊漁港の見学などをし、漁業について学んでいました。



また、6月28日(月)、29日(火)に中里中学校の2年生、7月2日(金)には小泊中学校の2年生が小泊漁協婦人部の協力のもとメバル料理に挑戦しました。

生徒たちは、メバルのさばき方に苦労しながらも、上手にさばき、調理して「おいしい」と言いながら食べていました。



## 全国での活躍を誓う

### 小林叶和君が全国大会出場報告

**全**農杯2021年全国日本卓球選手権大会青森県予選で第5位に入賞した武田小学校4年生の小林叶和君が6月9日(水)に町長のもとを訪れ、全日本卓球選手権大会に出場することを報告しました。

この大会は、7月22日(水)から25日(土)まで兵庫県神戸市にあるグリーンアリーナ神戸で無観客で行われ、小林君は小学4年生以下の部であるカブの部に出場します。

町長が「チャンピオンを目指して頑張ってもらいたい」と激励した後「いつか一緒に卓球の試合をしよう」と言うと、小林君は大きくうなずき「2回目の全国大会なので、雰囲気は飲み込まれずに前回よりもいい成績を残せるようがんばる」と意気込んでいました。



## 今日は私たちの誕生日です!

### 2人が100回目の誕生日を迎えました

**6**月11日(金)に満100歳の誕生日を迎えた小山内タヤさんの自宅に町長が訪れ、顕彰状や祝い金の目録を手渡しました。

小山内さんは旧内潟村今泉に生まれ、20歳で結婚。体を動かすことが好きで70歳まで林業の仕事に従事していました。また、テレビを見るのが好きで、特に国会中継やスポーツ中継を見ていたそうです。

小山内さんは「毎日3食、好き嫌いなく食べていたおかげで長生きすること

とができた」と長寿の秘訣を話しました。

**ま**た、6月14日(月)に100回目の誕生日を迎えた小林キエさんへ、町長から顕彰状や祝い金の目録が手渡されました。

小林さんは旧相内村に生まれ、20歳で結婚。出稼ぎでホテル業や付添婦をしながら、趣味の畑仕事や岩のり採りを楽しんでいました。

現在は特別養護老人ホーム「すわんの里」に入所していて、積極的に洗濯物を畳んだり、他の入居者との会話を楽しんで、体調を崩すことなく過ごしているそうです。



## ごみはどう処理されているの？

2つの小学校でごみ学習会が行われました

6月11日(金)に薄市小学校4年生、17日(木)と22日(火)に小泊小学校の4年生が、施設を巡ってごみの処理過程を学ぶ「ごみ学習会」を行いました。

児童たちは中泊町最終処分場、西部クリーンセンター、各地区のストックヤードの3か所を回り、ゴミが処分されるまでの工程を学びました。

最終処分場では、化学薬品や微生物を使った実験を見せながらの説明があり、興味津々の様子で見学をしました。

また、西部クリーンセンターでは、燃や



した後の灰をクレーンで運ぶ作業を実際に体験し、喜びの声をあげていました。そして、ストックヤードでは、資源ごみとして出されたものが、どのようなものに生まれ変わるのかを聞き、驚いていました。

児童たちは、「すごかった」「ごみの処理がどれだけ大変なのか分かった」と驚きの声をあげていました。

この学習会は、7月2日に武田小学校、8月下旬に中里小学校でも実施予定です。

## 大きくなあれ!おいしくなあれ!

中里こども園がサツマイモ植え体験

6月14日(月)に町の若手農業者を中心に構成される「ばろかだる会」の大川さんの畑で、中里こども園の園児25人が紅はるか、ふくむらさき、安納3号の3種類のサツマイモを植えました。

園児たちは「大きくなあれ!」と願いを込めながらサツマイモの苗を植えていました。

古川<sup>ま</sup>恵<sup>る</sup>ちゃん「初めて芋を植えたが楽しかった。大きく育ったらスイートポテトにして食べたい」と今後の生育が楽しみなようでした。



## 郷土愛を育む

中里高校が史跡探究を行いました

6月18日(金)に中里高校の生徒が史跡探究を行いました。

この探究は宮越家の文書や美術工芸品の説明を博物館の齋藤館長から聞き、実際に宮越家のステンドグラスや町内の史跡などを見学することで、郷土愛を育むことを目的として行われました。

生徒たちは、館長から宮越正治さんの交友関係や家に使われているけやきの値段を聞き、驚きの声をあげていました。



## 広場にサルビアを植える美化活動

中里高校が令和3年度全校奉仕活動

昨年(2021年)に引き続き中里高校が全校奉仕活動を5月25日(火)に行い、米マイロードに面する「うるおい広場」で約5,000本のサルビアを植えました。

中里高校では例年、全校奉仕活動を行っており、過去には町内各施設の清掃なども手掛けてきました。

今年も昨年に引き続き、福浦コスモス会(代表・竹内恭一)の皆さんと約5,000本の苗を植え、生徒たちは福浦コスモス会の皆さんと協力しながらスムーズに作業を進めていました。



生徒たちが植えたサルビアは、今月頃から満開となり、秋まで見ごろが続く見込みです。

## 町の観光資源への理解を深める

中里小6年生が出前講座を受講

6月21日(月)に中里小学校6年生25人が「町の観光をメインに児童の郷土に対する理解を深めるとともに、将来の町を担う若い世代の育成を図る」ということを目的とした出前講座を行いました。

児童たちは、駅ナカにぎわい空間で金多豆蔵人形芝居を見学した後、2班に分かれて宮越家と博物館の見学を行いました。

須藤琥士朗くんは「楽しかった。金多豆蔵の人形が思ったよりも大きくてびっくりした」と話していました。

この中里小学校6年生の出前講座は7月にも行われる予定です。

